

背筋もピン!

マナー(礼法)教室

大山保育所

大山保育所では、年長児が毎月一回マナー教室としてお茶会を開いています。

講師は、装道礼法そうどうれいほうきもの学院の青木幸子先生。マナー教室でお茶の作法を学びながら、あいさつや正座の仕方、立ち方や歩き方などの立ち振る舞いを教えていただいています。

青木先生からは礼法だけで

なく、ひな祭りや端午の節句など、季節の伝統行事の話を聞いたり、7月には無病息災を祈願する「輪くぐり」の体験もさせていただきました。

マナー教室を始めたころはじつとしていることすら大変だった子どもたちでしたが、回数を重ねるごとに、長い時間座っていることができるようになりました。

秋には保護者を招いて、子どもたちがお茶をたててもらって、大変好評でした。3月にはマナー教室の総仕上げとして、3歳以上児全員で青木先生を囲んでの「お茶会」を楽しみました。

「礼に始まり、礼に終わる」。当たり前のしぐさが薄れる中、子どもたちが礼法を身に付けてくれることを願っています。



▶野点も体験しました

2代目を育てよう 大山並木松

大山小学校



▶大山並木松

遭難者が多かった大山参りの冬の道しるべとして、豪円僧正が、慶長年間(1596~1615)に、当時の山奉行に命じて植えさせたものと伝えられている「大山並木松」。それから長い年月の間に落雷、風雪、また松くい虫や老朽化等により本数が減り、現存しているのは23本となっています。

大山参りのシンボルを守り、ふるさと大山の自然や文化への愛着を持つ児童を育てることを目的に、鳥取森林管理署と連携して、大山小学校の1・2年生が並木松の遺伝子を受け継ぐ2代目松の育成に取り組みました。

3月3日には、児童が松の種まき、接ぎ木、松を枯らし、卒業時には植樹する計画



▲タネまきもしました



▲接ぎ木の手順を教えてもらいました

ンチュウの観察体験をしました。児童からは、「接ぎ木のしかたがわかって楽しかった」「体育館を超えるぐらい大きくなってほしい」などの感想がありました。

今回接ぎ木した2代目松の子どもは児童らが大切に管理し、卒業時には植樹する計画です。